

# 確かな学力の育成と評価の在り方

— 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定と評価—

小橋 雅彦 深澤 清治 檜葉みつ子 石原 義文  
井長 洋 小銭 恭子 五井 千穂 瀬戸口茂久  
山岡 大基 山田佳代子

## 1. はじめに

2011年6月に「外国語能力の向上に関する検討会」がとりまとめた「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」(文部科学省, 2011)において, 各中・高等学校が学習指導要領に基づき, 生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定することについて提言がなされた。そして, この提言に基づいて『外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議(第1回)』(2012年8月28日)が開催された。当該検討会議における配付資料(文部科学省, 2012)において, 『外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に係る検討における基本的考え方(案)』の中で, 「学習到達目標は学習指導要領を踏まえて設定する」ことや, 「観点別学習状況の評価等, 学習指導要領に基づく学習評価との整合性を保持した上で設定する」こと, さらに「主として教員が生徒の指導と評価の改善のために活用することを目的として設定する」ことが確認されている。そして, 2013年3月には, 文部科学省から『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』が作成され, 公表された。

提言に基づく一連の施策は, 新学習指導要領の着実な実施を押し進めるために計画されたものであり, 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定は学習指導要領に基づいた上で, 観点別学習状況の評価と相まって設定されるべきものであると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は学習到達目標を設定するにあたり, 目標を

達成しているかどうかの評価を, 小中高12年間を見通した「CAN-DOリスト」の中で体系化し, それぞれの能力記述文を作成するとともに, その技能を測るための評価課題の事例を提案することを目的とした。

## 3. CAN-DOリスト作成過程

目標の達成は, 単元の中で成されると思われるものもあれば, 複数の単元を経たり, 1学期間にわたって指導を加えたりした後に達成されることが考えられるものもある。したがって, 評価場面は「活動の観察」「ワークシート」「定期考査」など, 観点別学習状況の評価に資するよう日常の授業との関連で行われるように配慮するとともに, 評価機会はできるだけ多く設定できるようにした。

また, 広島大学附属小学校(以下, 「附属小学校」)が平成25年度より1年生から英語科として体制を整えた。このことは, 本校における6年間を見通した「CAN-DOリスト」を作成するだけでなく, 附属小学校との連携の必要性があることを意味した。そこで, 「CAN-DOリスト」は小学校1年生から高等学校3年生までの12年間にわたるものを作成の目標とした。

「CAN-DOリスト」作成にあたっては, 能力記述子が4技能を用いて何ができるようになるかを表した能力記述文で設定することとし, 目標の達成を数値目標の達成に置き換えないことを旨とした。なぜなら, 高校3年生で「読むこと」における目標として, 「大学入試センター試験レベルの英文600語程度を120WPMの速度で読んで, その概要が把握できる。」という目標を設定してしまうと, 大学入試センター試験レベルの英文とは他にどのような英文のことを意味するのか, また120WPMの速度で読まなければならない根拠は何

---

Masahiko Kobashi, Seiji Fukazawa, Mitsuko Kashiba, Yoshihumi Ishihara, Hiroshi Icho, Kyoko Kozeni, Chiho Goi, Shigehisa Setoguchi, Taiki Yamaoka, and Kayoko Yamada: Enhancement and assessment of English academic ability and skills in elementary, junior, and senior high school: Goal setting and assessment in learning English from the viewpoint of CAN-DO statements

か、といった疑問を生じることになり、一見具体的な数値が示されていて目標が明らかなようではある一方で、その能力を用いてどのような英語使用が可能なかが不明となるからである。

もちろん、具体的な数値目標を掲げて、その目標を達成させる指導に意義があることに疑いの余地はないが、「CAN-DOリスト」における表現は、数値目標の達成により習得された知識や能力を活用して、英語を使って何ができるかといった、よりホリスティックな表現でなければならず、数値目標の達成は「CAN-DOリスト」の能力記述文において示された技能を担保する下位項目での達成目標と見なされるべきである。そのような下位項目の達成目標を日常的に評価することによって、「CAN-DOリスト」の能力記述文において示された技能が身についたと見なすべきであると考えられる。

また、外部検定試験として広く利用されている実用英語技能検定試験やGTEC for STUDENTSなどについては、受験結果を外部指標として補足的に活用することも可能であるとした上で、受験結果そのものが目標となるべきではないとされており（文部科学省，2013）、本校で作成する「CAN-DOリスト」においては級やグレードを達成目標として示さないこととした。

なお、「CAN-DOリスト」作成において、小学校5・6年生と中学校1年生、および中学校3年生と高等学校1年生では、CEFR-Jにおける同じレベルの能力記述子を用いているが、これは同じ能力記述子であっても言語の使用場面や言語の働きの組み合わせによって

は、言語活動によって技能レベルに差が存在すると思われたためであり、また小中および中高間の円滑な接続を促すためにも、シームレスな技能レベルの高まりを促す指導を期待したためである。よって、その間の技能レベルの高まりの記述については、学習指導要領における記述を参考にして示している。

以上のことを踏まえ、CEFR-J Version 1.0（投野，2012）に示されたレベルPreA1からB1.2までを小学校1年生から高等学校3年生までに配置した上で、学習指導要領に示された言語活動の中からそれぞれのレベルに相当するものを選択し、能力記述文の形で示した。（表2，3，4）

一方で、中学校学習指導要領の目標は学年ごとに設定されておらず、中学校3年間の指導で身に付ける目標となっている。そのため、学年ごとに達成すべき目標を示すために、学習指導要領の指導事項を基に評価規準を設け、それぞれの評価規準を満たしたと判定される基準を3段階で示した4技能についての活用力のルーブリック（松浦ほか，2012）を参考にした。

#### 4. 評価方法と評価時期

評価については、技能評価の安定性を保証するために、同レベル同技能に関しては複数回評価することが好ましいと考えた。したがって、多様な評価方法を学年ごとに集約し、レベルごとに教員間で評価が共有できるように学年ごとの評価フレーム（表1）を作成した。この評価フレームでは、中高の6年間を見通して各学期に1回のパフォーマンス・アセスメントを行う。

表1 CAN-DOテスト・パック（バッテリー）Fuzoku

	1 学期	2 学期	3 学期	実力・学年テスト
高Ⅲ	Academic Listening	Academic Writing (Multiparagraph)		
高Ⅱ	Daily Listening	Academic Writing (Single Paragraph)	Prepared Speech (Presentation)	Critical Reading Specific Purpose Reading Advanced
高Ⅰ	Specific Purpose Listening	Quick Writing (word→phrase→sentence)	Spontaneous Speech (Personal Talk)	Skimming Specific Purpose Reading Intermediate
中3	Daily Listening Basic	Personal Spoken Conversation	Sentence Writing	Specific Purpose Reading Basic
中2	Specific Purpose Listening	Conventional Speaking	Personal Written Conversation	Fun Reading (Narrative)
中1	Classroom Listening	Classroom Speaking	Classroom Writing (Note Taking)	Classroom Reading

また、各テストについてGrade 1～5でスコア付けして、形成的アセスメントを行い、学年末に総括的に個人プロフィール作成した上で、観点別学習状況の総括資料とする。さらに、パフォーマンス・アセスメントに向けての指導は帯活動の形で継続的に行い、指導過程については全クラス共通に行うこととしている。

## 5. 評価の事例①

### (1) 小学校定期テスト①

評価の対象：小学校3年生

評価の観点：外国語理解の能力

評価規準：

#### ●CEFR-J 【A1.2】「聞くこと」

- ・趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。
- ・日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。

#### ●技能「聞くこと」

②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。

【特定の身近な場面において、ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、大まかな内容を理解する】

③質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。

【やさしい英語の質問や指示を聞いて、簡単な言葉や動作で応じる】

### (2) 小学校定期テスト②

評価の対象：小学校3年生

評価の観点：外国語理解の能力

評価規準：

#### ●CEFR-J 【PreA1】【A1.1】「読むこと」

- ・口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけてことができる。
- ・「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。
- ・ファーストフード・レストランの、絵や写真がついたメニューを理解し、選ぶことができる。

#### ●技能「読むこと」

①文字や符号を識別し、正しく読むことができる。


【アルファベットの大文字・小文字を識別し、正しく読む】

【口頭活動で既に慣れ親しんだ簡単な単語を見つけたり、発音（音読）したりする】

## (3) 指導と評価結果

定期テスト①では、1日の生活についての時刻を尋ねる表現を学習した後、図1のような設問を設けた。

**2. What time do you watch T.V.?**



A) I watch the Disney channel.  
B) I watch T.V. on Friday.  
C) I watch T.V. at 7:30.

図1 小学校3年生11月実施のテスト①

小学校3年生では、指導の段階で文字の提示はするものの、自分だけの力で全ての英語を読んで理解することまでは求めていない。したがって、出題の際には、図1のスライドを提示し、教師が問い(“No.2 What time do you watch T.V.?”)と選択肢全てを読み上げ、児童は聞き取ったものの中から最も適切であると思われる応答を解答用紙のA～Cの記号の中から選択する形式をとった。

定期テスト②は、帯学習でフォニックスの指導を行い、音素のみの組み合わせで構成される単語はある程度読めるようになるまで指導を行った後に実施した。テスト(図2)では教師が発音する単語を聞いて、正しいものを1～3の中から選択した。なお、扱う単語は全て児童の既習または容易に意味を推測できるものとした。

**5. What word is this?**

1) mgnit  
2) nugmet  
3) magnet

図2 小学校3年生11月実施のテスト②

「聞くこと」「読むこと」とも結果は概ね良好で8割の児童が正答を選択した。小学校でテストを実施することについては、「英語嫌い」を作ることが懸念されたが、適切に評価・フィードバックをすることで児童の英語力の基盤作りに寄与するものと考えている。

## 6. 評価の事例②

### (1) テストパック “Classroom Listening”

評価の対象：中学校1年生

評価の観点：外国語理解の能力

評価規準：

#### ●CEFR-J 【A1.3】「聞くこと」

- ・ ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。
- ・ (買い物や外食などで) 簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。

#### ●学習指導要領「聞くこと」

- ①話されている内容から話し手の意向を聞き取ることができる。

【質問を聞いて意向を理解する】

- ②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聴き取ることができる。

【ゆっくりはっきりとした速さ】

- ③質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。

【指示を聞いて、適切に行動する】

### (2) テストパック “Classroom Speaking”

評価の対象：中学校1年生

評価の観点：外国語表現の能力

評価規準：

#### ●CEFR-J 【A1.3】「話すこと・やりとり」

- ・ 趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。
- ・ 基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。

#### ●学習指導要領「話すこと」

- ①聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。

【相手の要求に応じて繰り返したりして話す】

- ②尋ねられたことに対して、適切に応答することができる。

【身のまわりの事柄に関する質問に対して応答する】

- ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。

【聞き直す、相手の発言を繰り返すなどの、コミュニケーションを円滑にする表現を使って話す】

### (3) 指導と評価結果

Classroom Englishを、教員が使う表現と生徒が使

う表現に分けて指導した。帯活動で音読・暗唱・ペアワークなどで練習し、習熟(聞いてわかる・自分で言える)を図った。「聞くこと」に関しては図3のような小テストを行い、「話すこと」に関しては、授業中に生徒個人に発話させるパフォーマンス・テストを行い評価した。

ほとんどの生徒が良好な習熟状況であったが、一部不振な生徒にはフォローアップの指導を行った。

先生の言う英語を聞いて、その意味を選択肢より選び、記号で答えなさい。

- (1) さあ、始めましょう。
- (2) 授業の準備をきなさい。
- (3) 黒板を消してください。
- (4) 誰がやらなければならないのですか。
- (5) 立ち上がりなさい。
- (6) 座りなさい。
- (7) 教科書を出しなさい。
- (8) 教科書を閉じなさい。
- (9) 教科書を見てはいけません。
- (10) ペアになりなさい。
- (11) 4人グループを作りなさい。
- (12) パートナーと向かいあいなさい。
- (13) 机を寄せてくっつけなさい。
- (14) 机の上の物を全部片付けなさい。
- (15) じゃんけんして勝者を決めなさい。
- (16) 誰が最初にやる？
- (17) 敗者は教科書を音読します。
- (18) ワークシートに名前を書きなさい。
- (19) パートナーを替えなさい。
- (20) 1座席分時計回りに移動しなさい。
- (21) 自分の座席に戻りなさい。
- (22) モデル音声を聴きなさい。
- (23) 私の言うことをまねて言いなさい。
- (24) もう一度。
- (25) 同じことをやりなさい。
- (26) 英語で言いなさい。
- (27) 黒板を見なさい。
- (28) 前に出て来なさい。
- (29) 挙手しなさい。
- (30) 大きな声で、はっきりと言いなさい。

図3 Classroom English Vol.1問題

## 7. 評価の事例③

### (1) テストパック

Academic Writing, (Multiparagraph)

評価の対象：高等学校3年生(旧課程履修)

評価の観点：外国語表現の能力

評価規準：

#### ●CEFR-J 【B1.2】「書くこと」

- ・ 新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。

- ・物事の順序に従って、旅行記や自分史、身近なエピソードなどの物語文を、いくつかのパラグラフで書くことができる。また、近況を詳しく伝える個人的な手紙を書くことができる。

●学習指導要領

【コミュニケーション英語Ⅲ】

- ・論理の一貫性、段落のつながりなどに注目して、複数の段落からなる、まとまりのある文章を書くことができる。

【英語表現Ⅱ】

- ・内容を読み返したり、他の意見を参考にしたりして、自分で文章を推敲することができる。
- ・論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くことができる。

(2) 指導と評価結果

言語の使用場面を「手紙や電子メールのやりとり」とし、言語の働きを「相手の行動を促す：助言」と設定した。手紙や電子メールにおいて使用される特有の表現や助言に用いられる助動詞などを指導した後、練習を行った。定期テストにおいて図4のような問いを出題し、評価した。評価は求められた分量を書いているかどうか、助言として一貫性のある内容であるかどうか、文法的正確さなどの観点から評価した。

問い

次の英文は中学校3年生の女子が新聞の人生相談欄に寄せた相談内容と、それに対する助言の一部である。この書き出しに続ける形で、解答欄に収まる範囲で助言を完成させなさい。なお、解答欄は1行につき10語～12語を目安として、6行以上は使用すること。

“Daily Yomiuri” Friday, November 22, 2013

**Going at my own pace feels like a bad habit**

Dear Troubleshooter

I'm a girl in the third year of middle school. I hate my own personality, but I don't know what to do.

I take everything at my own pace. To put it in a bad light, this can also be called self-centered.

As I prefer to act alone rather than in a group, I always cause problems for others.

I'm a member of the brass band club at school. Sometimes I'm too busy with my own things, and other members in my grade often help me out.

Though I am like this, I want to be a secretary in the future. One reason is that I really want to be a cool woman in a business suit, but the largest motivation is that there is a person I really want to work for. It's someone whom I adore and am dying to meet, and I hope I could learn many things while working beside this person.

But I know a job as a secretary means having to go along with whatever the president or boss wants and to support them. I don't think it is a job that someone like me, who does things at my own pace, can fulfill.

Thinking I should not be like this, I tried to do things at other people's paces, but it didn't work well. How can I change?

S, Yamaguchi Prefecture

Dear Ms. S:

You observe yourself so well at such a young age.

I'm also impressed by your attitude of trying to improve yourself to reach your goal. The person whom you admire must be amazing indeed. -----

図4 Academic Writing, (Multi Paragraph)問題

評価結果は概ね良好であった。解答のいくつかを助言内容によって整理し、テスト後フィードバックをした。図5は十分満足できると判断した解答例である。

• You do not have to worry about your future. You have enough time to change yourself, and have your great ability which has still been unclear. In fact, it is so good that you just understand your bad point, because many people do not usually try to admit their negative sides. Moreover, the fact that you think you would like to change yourself is wonderful. Believe in yourself!

• I have two pieces of advice for you. First, you should calm down and pay attention to other people carefully. Then, you can realize what to do next. Second, you should help your family with their housework. It can develop your ability to pay attention to others, which is important to be a secretary.

図5 Academic Writing, (Multi Paragraph)解答例

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
聞くこと	CEFR-J【PreA1】 ・ゆっくりはっきり話されれば、日常の身近な単語を聞き取ることができる。 ・英語の文字が発音されるのを聞いて、どの文字かわかる。 【A1.1】 ・大人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。 ・日常生活に必要な重要な情報(数字、品物の値段、日付、曜日など)を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞きとることができる。	CEFR-J【A1.2】 ・趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 ・日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。	CEFR-J【A1.3】 ・ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。 ・(買い物や外食などで)簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 CEFR-J【A2.1】 ・ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。 ・学校の宿題、旅行の日程などの明確で具体的な事実を、はっきりとなじみのある発音で指示されれば、要
	・強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。 【アルファベットの文字を聞き取る】 【日常の身近な単語を聞き取る】 ②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。 【身近な場面において、ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、大まかな内容を理解する】 ③質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。 【身近な場面において、やさしい英語の質問・依頼・指示を聞いて、簡単な言葉や動作で応じる】	②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。 【身近な場面において、ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、内容を理解する】 ③質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。 【やさしい英語の質問・依頼・指示を聞いて、簡単な言葉や動作で応じる】	②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。 【ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、内容を理解する】 ③質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。 【やさしい英語の質問・依頼・指示を聞いて、簡単な言葉や動作で応じる】
理解	CEFR-J【PreA1】 ・ブロック体で書かれた大文字・小文字がわかる。	CEFR-J【PreA1】 ・口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。 CEFR-J【A1.1】 ・「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。 ・ファーストフード・レストランの、絵や写真がついたメニューを理解し、選ぶことができる。	CEFR-J【A1.2】 ・簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。 ・身近な人からの携帯メールなどによる、旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な近況報告を理解することができる。 CEFR-J【A1.3】 ・簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。 ・簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を理解することができる。
	①文字や符号を識別し、正しく読むことができる。 【アルファベットの大文字・小文字を識別し、正しく読む】	①文字や符号を識別し、正しく読むことができる。 【アルファベットの大文字・小文字を識別し、正しく読む】 【口頭活動で既に慣れ親しんだ簡単な単語を見つけたり、音読(発音)したりする】	①文字や符号を識別し、正しく読むことができる。 【アルファベットの大文字・小文字を識別し、簡単な単語を見つける】 【口頭活動で既に慣れ親しんだ簡単な単語を見つけたり、音読(発音)したりする】 ③伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じることができる。 【絵や写真などの助けを借りながら、口頭活動で既に慣れ親しんだ簡単な単語や表現を読んで理解する】
読むこと	CEFR-J【PreA1】 ・基礎的な語句を使って、「助けて!」や「～が欲しい!」などの自分の要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。 ・一般的な定型の日常の挨拶や季節の挨拶をしたり、そうした挨拶に応答したりすることができる。	CEFR-J【A1.1】 ・なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。 ・家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。	CEFR-J【A1.2】 ・基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)において単純に回答することができる。 ・スポーツや食べ物などの好き嫌いなどのともなじみのあるトピックに関して、はっきり話されれば、限られたパートナーを使って、簡単な意見交換をすることができる。 CEFR-J【A1.3】 ・趣味、習いごとなどのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。 ・基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。
	CEFR-J【PreA1】 ・簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのご限られた情報(名前、年齢など)を伝えることができる。 CEFR-J【PreA1】 ・前もって用意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物などを見せながらその物を説明することができる。	CEFR-J【A1.1】 ・基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)を伝えることができる。 ・基礎的な語句、定型表現を用いて、簡単な情報(時間や日時、場所など)を伝えることができる。	CEFR-J【A1.2】 ・前もって発話することを意図した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。 CEFR-J【A1.3】 ・前もって発話することを意図した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の意見を言うことができる。
話すこと	・強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、英語らしく発音することができる。 【簡単な語句や表現を英語らしく発音する】 ①聞き手を意識して、話すことができる。 【適切な声量・アイコンタクト・表情を意識して話す】 ②尋ねられたことに対して、適切に回答することができる。 【やさしい英語の質問・依頼・指示を聞いて、簡単な言葉や動作で応じる】 ⑤適切な音量や明瞭さで話すことができる。 【適切な声量・アイコンタクト・表情を意識して話す】	・強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、英語らしく発音することができる。 【簡単な語句や表現を英語らしく発音する】 ①聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 【大切なところを強調して話すことができる。】 ②尋ねられたことに対して、適切に回答することができる。 【英語の質問・依頼・指示を聞いて、簡単な言葉や動作で応じる】 ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 【買い物や道案内など特有の表現がよく使われる場面、それらの表現を使って話す】 ⑤適切な音量や明瞭さで話すことができる。 【適切な声量・アイコンタクト・表情を意識して話す】	①聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 【大切なところを強調して話すことができる。】 ②尋ねられたことに対して、適切に回答することができる。 【英語の質問・依頼・指示を聞いて、簡単な言葉や動作で応じる】 ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 【買い物や道案内など特有の表現がよく使われる場面、それらの表現を使って話す】 ⑤適切な音量や明瞭さで話すことができる。 【適切な声量・アイコンタクト・表情を意識して話す】
	CEFR-J【PreA1】 ・アルファベットの大文字・小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。 ・単語のつづりを1文字ずつ発音されれば、聞いてそれとおり書くことができる。また書いてあるものを写すことができる。 CEFR-J【A1.1】 ・住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	CEFR-J【PreA1】 ・アルファベットの大文字・小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。 ・単語のつづりを1文字ずつ発音されれば、聞いてそれとおり書くことができる。また書いてあるものを写すことができる。 CEFR-J【A1.1】 ・住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	CEFR-J【A1.1】 ・自分について基本的な情報(名前、住所、家族など)を辞書を使えば短い句または文で書くことができる。 CEFR-J【A1.2】 ・簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。 ・簡単な語や基礎的な表現を用いて、メッセージカード(誕生日カードなど)や身近な事柄についての短いメモなどを書く。 CEFR-J【A1.3】 ・自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。 ・趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。
書くこと	・文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くことができる。 【アルファベットの大文字・小文字をブロック体で書く】 【書かれている簡単な語句や表現を正しく写す】 【1文字ずつ発音される単語のつづりを、聞いてそれとおり書く】	・文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くことができる。 【アルファベットの大文字・小文字をブロック体で書く】 【書かれている簡単な語句や表現を正しく写す】 【1文字ずつ発音される単語のつづりを、聞いてそれとおり書く】 ・語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。 【辞書などの助けを借りながら、口頭活動で既に慣れ親しんだ簡単な単語や表現を書く】	・文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くことができる。 【アルファベットの大文字・小文字をブロック体で書く】 【書かれている簡単な語句や表現を正しく写す】 【1文字ずつ発音される単語のつづりを、聞いてそれとおり書く】 ・語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。 【辞書などの助けを借りながら、口頭活動で既に慣れ親しんだ簡単な単語や表現を書く】

	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
理解	聞くこと CEFR-J【A1.3】 ・ゆっくりはっきりと語れば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の周りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。 ・(買い物や外食などで)簡単な用いたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと語れば、理解することができる。	CEFR-J【A2.1】 ・ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。 ・学校の宿題、旅行の日程などの明確で具体的な事実を、はっきりとなじみのある発音で指示されれば、要点を理解することができる。	CEFR-J【A2.2】 ・スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。 ・視覚補助のある作業(料理・工作など)の指示を、ゆっくりはっきりと語られれば、聞いて理解することができる。
	学習指導要領 ①話されている内容から話し手の意向を聞き取ることができる。 【質問を聞いて意向を理解する】 ②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聴き取ることができる。 【ゆっくりはっきりとした速さ】 ③質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。 【指示・質問・依頼を聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。】 【指示を聞いて、適切に行動する】	①話されている内容から話し手の意向を聞き取ることができる。 【質問・指示・依頼を聞いて場面や状況に応じて相手の意向を理解する】 ②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聴き取ることができる。 【ゆっくりはっきりとした速さ】 ③質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。 【指示・質問・依頼を聞いて、簡単な言葉で応じる】 ④まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聴き取ることができる。 【聞き落としてほならない点、要点を理解する】	①話されている内容から話し手の意向を聞き取ることができる。 【質問・指示・依頼・提案を聞いて場面や状況に応じて相手の意向を理解する】 ②自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聴き取ることができる。 【標準的な英語の適切な速さ】 ③質問や依頼などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。 【指示・質問・依頼・提案を聞いて、言葉や行動によって適切に応じる】 ④まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聴き取ることができる。 【要点とともに概要を聞き取る】
テストバック	Classroom Listening	Specific Purpose Listening	Daily Listening Basic
読むこと	CEFR-J【A1.3】 ・簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。 ・簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を理解することができる。	CEFR-J【A2.1】 ・簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。 ・簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	CEFR-J【A2.2】 ・簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を採ることができ、 ・生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
学習指導要領	①文字や符号を識別し、正しく読むことができる。 【アルファベットの文字や形、各符号の持つ意味や使い方、正しい発音】 ②意味内容にふさわしく音読することができる。 【語句や文】 ③あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 【短い物語や短い説明文】 ④書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。 【メモや簡単な手紙または電子メール】 ⑤文や文章を目的に応じた速さで読み取ることができる。 【手紙または電子メール】 ⑥話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができる。 【内容の適切な理解、簡単な感想や意見】	①文字や符号を識別し、正しく読むことができる。 【英語の綴りを見て正しく発音する】 ②意味内容にふさわしく音読することができる。 【対話文、物語】 ③あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 【対話文、物語、説明文】 ④書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。 【手紙または電子メール】 ⑤文や文章を目的に応じた速さで読み取ることができる。 【手紙または電子メール】 ⑥話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができる。 【内容の適切な理解、感想や意見、賛否】	①文字や符号を識別し、正しく読むことができる。 【英語の綴りを見て正しく発音する】 ②意味内容にふさわしく音読することができる。 【説明文、意見文、感想文、対話文、物語】 ③あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 【対話文、比較的長い物語、比較的長い説明文】 ④書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。 【まとまりのある文】 ⑤文や文章を目的に応じた速さで読み取ることができる。 【まとまりのある文】 ⑥話の内容や書き手の意見などを批判的に読むことができる。 【内容の適切な理解、感想や意見、賛否、理由】
テストバック	Classroom Reading	Fun Reading (Narrative)	Specific Purpose Reading Basic
話すこと	やりとり CEFR-J【A1.3】 ・趣味、新活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと語れば、簡単な質疑応答をすることができる。 ・基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、助けを求めたり、断ったりすることができる。	CEFR-J【A2.1】 ・順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。 ・補助となる絵や図を用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	CEFR-J【A2.2】 ・簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。 ・予測できる日常的な状況(郵便局・駅・店など)ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。
	発表 CEFR-J【A1.3】 ・前もって発話することを意識した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。 ・前もって発話することを意識した上で、日常生活に関する簡単な事実を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で描写できる。	CEFR-J【A2.1】 ・一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に熱心ながら自己紹介をすることができる。 ・写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピック(学校や地域など)について短い話をすることができる。	CEFR-J【A2.2】 ・写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活(直線距離のあるトピック)自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。 ・一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べるることができる。
学習指導要領	①聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 【相手の要求に応じて繰り返したりして話す】 ②尋ねられたことに対して、適切に回答することができる。 【身の周りの事柄に関する質問に対して応答する】 ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 【関連する、相手の発言を繰り返すなどの、コミュニケーションを円滑にする表現を使って話す】 ④与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。 【事実を具体的に話す】 ⑤適切な音量や明瞭さが話ることができる。	①聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 【相手の反応に応じて、大切なことを強調したり、わかりにくいところを繰り返したりして話す】 ②尋ねられたことに対して、適切に回答することができる。 【読み聞かされたことなどに関する質問に対して応答する】 ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 【新しい物や進歩的な特長の表現がくわかれる場合で、それらの表現を使って話す】 ④与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。 【事実に対して、それに対する気持ちや感想を関連づけて話す】	①聞き手を意識して、強調したり繰り返したりして話すことができる。 【問いつけて相手の理解を確認しながら、必要に応じて他の表現に言い直すなどして話す】 ②尋ねられたことに対して、適切に回答することができる。 【意見を尋ねる質問に対して応答する】 ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 【自身の身近な事柄に関する構文で、既習の語句や表現、文法事項などの知識を活用して話す】 ④与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。 【自分の意見や主張を理由や具体例などと共に話す】
テストバック	Classroom Speaking	Conventional Speaking	Personal Spoken Conversation
書くこと	書くこと CEFR-J【A1.1】 ・自分について基本的な情報(名前、住所、家族など)を辞書を使えば短い句または文で書くことができる。 CEFR-J【A1.2】 ・簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。 ・簡単な語や基礎的な表現を用いて、メッセージカード(誕生日カードなど)や身近な事柄についての短いメモなどを書く。 CEFR-J【A1.3】 ・自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。 ・趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。	CEFR-J【A2.1】 ・日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。 ・文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な文章、簡単な句や文を使った簡単な英語で、日記や写真、事柄の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。	CEFR-J【A2.2】 ・身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。 ・聞いたたり読んだたりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば基礎的な日常生活文章や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。
	学習指導要領	①内容的にまとまりのある一貫した文章がかけられる。 【写真を見せて、見てわかること、それ以外の情報により、人物などの紹介をする】 ②場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 【聞いたたり読んだたりした内容について、簡単なメモを書く】 ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 【メールなどで、相手の述べた事柄に対して、自分の感想とその理由を説明したり関連する情報を書く】	①内容的にまとまりのある一貫した文章がかけられる。 【自分が体験したことについて、時間の流れに沿って書く】 ②場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 【自分が体験したことについて、自分の考えや気持ちを書く】 ③場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 【新聞記事などを読み、理由を添えて、自分の意見を述べる】
テストバック	Classroom Writing (Note Taking)	Personal Written Conversation	Sentence Writing

	高校1年生	高校2年生	高校3年生
理解	<p>聞くこと</p> <p>CEFR-J【A2.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。</li> <li>・視覚補助のある作業(料理・工作など)の指示を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。</li> <li>・自分の周りで話されている少し長めの議論も、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然な速さの録音や放送(天気予報や空港のアナウンスなど)を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。</li> <li>・はっきりとなじみのある発音で話されれば、身近なトピックの短いラジオニュースなどを聞いて、要点を理解することができる。</li> </ul>
	<p>学習指導要領</p> <p>【コミュニケーション英語Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問、依頼、指示などを聞いて、簡単な言葉や動作などで適切に応じることができる。</li> <li>・出来事や物事についての説明や様々な会話を通して、重要な語句などを手がかりにして情報や要点を理解することができる。</li> <li>・情報と考え、事実と意とを区別し、整理しながら聞くことができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事物に関する紹介や報告、対話を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事物に関する紹介や報告、対話や討論を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。</li> </ul>
	<p>テストバンク</p> <p>Specific Purpose Listening</p>	<p>Daily Listening</p>	<p>Academic Listening</p>
	<p>読むこと</p> <p>CEFR-J【A2.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を採ることが出来る。</li> <li>・生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。</li> <li>・ゲームのやり方、申込書の記入のしかた、ものの組み立て方など、簡潔に書かれた手順を理解することができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学習や仕事に關係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表や関連づけながら理解することができる。</li> <li>・平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。</li> </ul>
	<p>学習指導要領</p> <p>【コミュニケーション英語Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味内容が相手に伝わるように音読することができる。</li> <li>・その場の状況、聞き手の反応、話題、伝えようとする内容や気持ちなどに応じた適切な速度や声の大ききで音読することができる。</li> <li>・説明などを読んで、特に重要な事実等を捉えることを通じ、全体の要旨を理解することができる。</li> <li>・物語などを読んで、登場人物の言動やその言動の理由等を捉えることを通じ、概要や要点を理解することができる。</li> <li>・つながらを示す指示語句に注意して文章を読み、論理がどのように展開しているかを把握することができる。</li> <li>・論理などを意識して、事実と意見を区別して内容を理解することができる。</li> <li>・読んだ内容についての賛賞や簡単な感想を述べるように、批判的に読むことができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読む目的を設定された上で、速読や精読などその目的に応じた読み方を選択して、読むことができる。</li> <li>・英文の意味や書き手の意図などを理解した上で、音声的な特徴なども注意しながら、書き手の伝えたいことが相手に伝わるよう音読や暗唱を行うことができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読む目的を明らかにした上で、速読や精読などその目的に応じた読み方を選択して、読むことができる。</li> <li>・未知の意味や推測したり背景となる知識を活用したりしながら読み進めることができる。</li> </ul>
<p>テストバンク</p> <p>Skimming, Specific Purpose Reading Intermediate</p>	<p>Critical Reading, Specific Purpose Reading Advanced</p>		
話すこと	<p>やりとり</p> <p>CEFR-J【A2.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な英語で、意見や気持ちややりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を敬ぶたりすることができる。</li> <li>・予測できる日常的な状況(郵便局・駅・店など)ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。</li> <li>・個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、社会的な会話を続けることができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院や市役所といった場所において、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関連する詳細な情報を提供して、その結果として正しい「責を受けること」ができる。</li> <li>・駅や店などの一般的な場所で、関連した切符の購入などといったサービスに関する語りなどの依頼を、自信を持って詳しく説明することができる。相手が協力的であれば、丁寧に依頼したり、お礼を言ったり、正しいものやサービスを受けることができる。</li> </ul>
	<p>発表</p> <p>CEFR-J【A2.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活(直接関連のあるトピック)自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。</li> <li>・一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べることができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れた語句や表現を用いて、自分の経験や夢、希望を相手に、話しを上げながら、ある程度詳しく話ることができる。</li> <li>・自分の考えや事柄に準備し、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないよう、一筋の通ったトピックや自分に関心のある事柄について話ることができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度の速読をもつて、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を簡潔に伝えて伝えることができる。</li> <li>・自分の関心事であれば、社会の状況(ただし自分の関心事)について、自分の意見を加えてある程度すらすらと発表し、聴衆から質問があれば相手に解できるように答えることができる。</li> </ul>
	<p>学習指導要領</p> <p>【コミュニケーション英語Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の発話に対して適切に反応することができる。</li> <li>・情報や考えなどについて互いに質問したり、質問に答えたりすることができる。</li> <li>・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の意見を話すことができる。</li> </ul> <p>【英語表現Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた話題について、即興で事実や意見・感情などを伝えることができる。</li> <li>・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基つて、情報や考えなどをまとめ、スピーチをすることができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な考え方ができる話題について、ペアで話し合い結論をまとめることができる。</li> </ul> <p>【英語表現Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた話題について、即興で伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。</li> <li>・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基つて、情報や考えなどをまとめ、プレゼンテーションをすることができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な考え方ができる話題について、グループで話し合い結論をまとめることができる。</li> </ul> <p>【英語表現Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた話題について、即興で伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。</li> <li>・予いスクリプションやデバートなどにおいて、多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手と議論するために意見を述べることができる。</li> <li>・発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを実際に活用することができる。</li> </ul>
	<p>テストバンク</p> <p>Spontaneous Speech (Personal Talk)</p>	<p>Prepared Speech (Presentation)</p>	
	<p>書くこと</p> <p>CEFR-J【A2.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の周りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。</li> <li>・短い日記帳形式の「内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば基本的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見を長く書くことができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に直接関わりのある環境(学校、職場、地域など)での出来事や、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。</li> <li>・身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。</li> </ul>	<p>CEFR-J【B1.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。</li> <li>・「物事の順序に従って、旅行記や自分史、身近なエピソードなどの物語文を、いくつかのバラグラフで書くことができる。また、近況を詳しく伝える個人的な手紙を書くことができる。</li> </ul>
<p>学習指導要領</p> <p>【コミュニケーション英語Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の考えを簡潔に書くことができる。</li> <li>・自分が伝えたいことについて、語彙を明示した上で、それに関する意見やその理由を書きすることができる。</li> <li>・トピック・センテンスやキーワードを適切に用いて、要点が明確な文章を書くことができる。</li> <li>・つながらを示す語やフレーズを適切に用いて、論理の展開が明確な文章を書くことができる。</li> </ul> <p>【英語表現Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手に対して書き方を考慮し、自分の伝えたいことが適切に伝わるように書くことができる。</li> <li>・読み手に情報を伝えたり、誤解したりするたためな様々な目的に適した書き方を選択し、書くことができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の一貫性、段落のつながりなどに注目して、まとまりのある文章を書くことができる。</li> <li>・「ペアやグループで文章を読み合い、改善点を指摘し合うことで、自分で文章を推敲することができる。</li> <li>・読み手の立場に立ち、文章の構成や表現などを考えながら書くことができる。</li> </ul>	<p>【コミュニケーション英語Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の一貫性、段落のつながりなどに注目して、複数の段落からなる、まとまりのある文章を書くことができる。</li> </ul> <p>【英語表現Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を読み通したり、他の意見を参考にしたりして、自分で文章を推敲することができる。</li> <li>・論点や根拠などを明確にするときに、文章の構成や段落との関連、表現の工夫などを考えながら書くことができる。</li> </ul>	
<p>テストバンク</p> <p>Quick Writing (word→phrase→sentence)</p>	<p>Academic Writing (Single Paragraph)</p>	<p>Academic Writing. (Multiparagraph)</p>	



## 8. 成果と課題

本研究では、広く認知されているCEFR-Jを基軸として新学習指導要領との整合性を図りながら、英語を用いて何ができるかという「技能」の評価を視点にして学習到達目標の設定を試みた。

また、学校教育における評価の側面として、観点別学習状況の評価に資することが重要であると考え、授業内外で行われる様々な評価方法を体系的に「CAN-DOリスト」の中に位置づけられるように工夫した。

学習者の技能の高まりを促すためには、良質な言語活動を授業で取り入れ、継続的かつ計画的な指導が必須であるが、評価においても評価機会を多く計画的に設けることにより、評価結果は目標を達成できたか否かだけでなく、形成的な評価として学習者にフィードバックされる必要がある。このことによって、学習者は自己の学習状況を客観的に振り返ることが可能になり、指導者は指導の在り方を振り返り指導の改善へとつながっていく。

以上のことを考慮すると、本研究で得られた最大の成果は、学習到達目標ごとに設定した評価フレームの構築であった。指導者は各々が日々工夫した評価方法を用いて授業内外で評価を行っているが、評価フレームの構築によって、特にパフォーマンス・テストを行う際のプロセスの透明化が図られ、評価の妥当性や信頼性が高まることが予想される。

しかしながら、CEFR-Jに示された能力記述子と学習指導要領を基に策定した能力記述子との間の整合性については検証されておらず、今後集積される評価材や評価結果を精査し、本研究で作成した「CAN-DOリスト」の妥当性を高めることが今後の課題である。

## 引用（参考）文献

- 1) CEFR-J Version 1.0 (2012) 東京外国語大学 投野由紀夫研究室  
URL : <http://www.cefr-j.org/download.html>
- 2) “Daily Yomiuri” Friday, November 22, 2013
- 3) 投野由紀夫 (2013) 「CAN-DOリスト作成・活用英語到達度指標CEFR-Jガイドブック」大修館書店
- 4) 松浦伸和ほか (2012) 「中学校英語科における活用力の育成と評価に関する研究」日本教材文化研究財団
- 5) 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社
- 6) 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂
- 7) 文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領 外国語編』開隆堂
- 8) 文部科学省 (2011) 「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」
- 9) 文部科学省 (2011) 「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (中学校 外国語)」
- 10) 文部科学省 (2012) 「外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議 (第1回) 配布資料, 資料5 外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に係る検討における基本的考え方 (案)」
- 11) 文部科学省 (2012) 「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (高等学校 外国語)」
- 12) 文部科学省 (2013) 「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き」